

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500078		
法人名	医療法人 みずほ会		
事業所名	グループホーム なかとさ		
所在地	高知県高岡郡中土佐町上ノ加江字ヲモイデ706-1		
自己評価作成日	平成27年10月27日	評価結果 市町村受理日	平成28年1月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は町内から少し離れた所にあり、周囲は田畑に囲まれた静かなところで地域の方の散歩コースとなっています。隣には郵便局や農協、喫茶店などがあります。春にはうぐいす、夏には蝉、秋にはモズの鳴き声の聞こえるのどかなところ。地域で行われる行事には、ほとんどご案内を頂き、できるだけ参加させてもらっています。小・中学校、保育園の運動会、卒業式などにも入居者さんと出席しています。地域の盆踊り、敬老会には全員で参加しています。施設の秋祭りも今年で5回目となり、100人を超える地域の方々にご参加いただき、賑やかにすることが出来ました。このように地域との交流を深め、地域に根ざした施設づくりを目指していきたいと思っています。グループホームなかとさに入居してよかったと思っ頂ける施設づくりを職員一同、一丸となって頑張っていきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JiryosyoCd=3992500078-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JiryosyoCd=3992500078-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年12月9日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者と共に町内会や小・中学校の行事に参加するほか、日常的に散歩や買い物、喫茶店の利用等積極的に地域に出向いて交流している。外出支援にあたっては利用者一人ひとりにその日の外出希望を聞いたり、利用者との話をしながら外出への気持ちを引き出すなど、利用者本位の支援に努めている。運営推進会議には地域代表が多く参加し、利用者が地域で暮らし続ける為の話合いから「いきいき百歳体操」を事業所で開催することになるなど、協議をサービス向上に活かしている。事業所の秋祭りには設営から片付けまで住民が協力してくれ、利用者が地域の行事に参加するときは利用者のための席を準備するなどの配慮を受けている。利用者が行きつけの店では認知症を身近なものとする声も聞かれるようになっており、利用者との自然な触れ合いが認知症への理解と啓発に繋がっている。「利用者のこれまでの暮らしを大切に、地域と共に安心して生活できる場の提供」という理念は、運営推進会議や地域の見守りと協力の中で実践されている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時に職員で考え作成した理念を、玄関や職員休憩室に掲示し、日常の業務の中で振り返りが出来るようにし、また月に1度のスタッフ会では全員でみずほ会理念となかどさの理念の唱和を行っている。	「利用者のこれまでの暮らしを大切に、地域と共に安心して生活できる場を提供する」という理念のもと、毎月のスタッフ会で理念を唱和して共有し、利用者を人生の先輩として敬う姿勢で、職員と利用者との関わりをもっている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週木曜日はモーニング支援日として、近隣の喫茶店に出かけている。近所の方の自宅にも、雛飾りや菊の花を見学に出かけて交流を深めている。地域の敬老会や盆踊りには全員で参加している。小・中学校や保育園の行事にも案内を頂き、できるだけ出席している。年に2回程度は施設内で交流もある。	町内会に未加入であるが、地域の防災訓練や一斉清掃に参加している。町内会や小・中学校の行事に参加し、日常的には散歩、買い物、喫茶店の利用等により、積極的に地域と交流している。事業所の秋祭りには多くの住民が参加し、 TENT張りや撤収の協力も得ている。	地域の協力もあり、利用者と住民との交流を積極的に支援しているが、事業所と地域住民が共に支え合う関係をより深めていくために、一般世帯と同じように町内会への加入を検討することを期待したい。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が月に1回程度ではあるが、独居の方の見守りに自宅を訪問している。また地域包括支援センターにも、見守りの方がいれば何時でも連絡をくださいと話している。いつでも気軽に立ち寄ってもらえるよう、管理者や職員が外出時には地域の方々に声掛けを行っている。			
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催している。利用者の状況や行事報告、事故報告など行い、委員さんからの意見を頂き、より良いサービスの向上に努めている。昨年より駐在さんや消防署員さんの出席をお願いしている。	会議には地域代表が多く参加して意見交換が活発に行われ、地域で長く暮らし続けるための協議から事業所での「いきいき百歳体操」の開始に繋げるなど、サービス向上に活かしている。ただし、評価制度を活用した話し合いは十分に行われていない。会議録は家族に送付し、周知している。	目標達成計画の取り組みや改善経過のモニター役として運営推進会議を活用し、サービス評価の効果をより高めるため、参考資料をもとに会議の目的を共有するなどの取り組みを期待したい。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、健康福祉課と地域包括支援センターの職員さんが出席くださり、意見や助言を頂いている。日頃から何かあれば相談の出来る関係は築かれている。	運営推進会議や、年3回の地域包括支援センター主催の研修会の機会に意見交換したり、随時に相談する等、連携を密にした関係を継続している。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規程で身体拘束を禁止しており、夜間は防犯上やむを得ず施錠しているが、早出の勤務者が出勤した時点で施錠はせず開放している。身体拘束をしないケアについては、全職員に周知徹底し、定期的に研修も受けている。安全確保の為やむを得ない時には、家族に説明し同意を得る等慎重に取り組んでいる。	職員は研修やケアを通じて身体拘束の弊害を理解し、言葉による行動制限についても、職員で注意合っている。利用者による行動があれば、原因の把握に努め、屋外に出た時には遠目で見守る等、安全で自由な暮らしの支援に努めている。リスクについてはその都度家族と話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法研修会は法人内でもスキルアップ研修に取り入れ、全職員が受けられるよう取り組み、職員への虐待防止の強化を図っている。地域包括支援センターの行う研修会にも参加している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度等法人内の研修会に参加し、制度を理解し、スタッフ会で共有していけるようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い、理解し納得を得た上で契約を結んでいる。改定時にも書面や電話連絡を行い、理解し納得を得るよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し、話し合いの時間を設け、意見や苦情を出して頂き、意見を集約し運営推進会議にも報告している。運営推進会議の議事録は、その都度家族さんに送付している。玄関にも意見箱を設置している。	日頃から意識的に利用者の要望を聴き取り、ケアに反映している。家族には面会時や電話で意見等を聞くように努めている。年2回、家族会を開催し半数ほどの家族が参加している。家族同士で話し合う機会も設けており、その内容は運営推進会議で報告するようにしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の担当者会やスタッフ会で意見を出し合い話しあうことで、運営に反映している。日々の中でも気づきがあれば、職員は意見を管理者に伝え、次回の会で話しあうようにしている。	職員の意見や要望は日々の現場や、毎月のスタッフ会で聞いて運営に反映している。車いす移乗時の負担軽減のため、ひじ掛け等を外せる車いすの購入などの要望が出され、ケア改善に活かしている。管理者会、管理者・主任の定例会等で法人へ意見が出せる仕組みもある。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の見直しをしているが、まだ賞与の分しか出来ておらず、昇給などの考課表はできていない。労働時間や条件など不審に思うことがあれば社会保険労務士と直接話ができるようになっている。資格取得や研修などの費用を法人が負担してくれる制度がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行っている。年間研修予定を立てて実践している。また、外部研修に参加できるよう法人から援助があるが、今年は職員1名が体調不良のため長期に休職したこともあり外部研修にはほとんど出かけられなかった。施設内研修も定期的に行っていけるよう計画を立てている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークの会などに参加したり、電話連絡をしたりして交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で聞き漏らしていることなど、入居後も日常の会話の中から本人の希望や要望を傾聴し、本人の望むことを少しでも可能に出来る事で、安心できる空間を確保し、よりよい関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは面談時によく話し合い、家族の希望を受け止め説明を行い、信頼関係を築いている。又、入居後もお便りなどで入居者の状態を報告している。家族の希望に沿えるような支援を行っている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、現在の状況を聴き、早急な対応が必要な際には法人内外と連絡を取り、利用できる場所を紹介するなどの対応をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームを家と考え、家族の一員として言葉掛けにも配慮している。アットホームな雰囲気を楽しみながら、お互いが助けあって生活していると思って頂けるように、自分でできることはお願いし、暮らしを共にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々状態の報告を行い、家族の訪問時には家族と利用者が共に楽しく過ごせるような空間づくりを心がけている。いつでも気軽に来て頂けるよう、職員は常に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の夏祭りや運動会、産業祭などに参加し、顔見知りの方々と話される機会を持っている。年に数回故郷訪問支援も行っている。自宅にも帰宅支援を行っている。今年も職員介助で家族の葬儀に参列された方がいた。	日々の利用者との関わりの中で、馴染みの人や場所の情報を把握することが多く、個別ケアに反映している。利用者じっくり関わって希望を聞き、自宅周辺のドライブをして落ち着くこともある。そのほか、馴染みの喫茶店、理美容院、商店、「道の駅」などに出かけて交流するなど、関係継続のための支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症レベルや性格などを理解し、交流を図れるような場面づくりや、関係性を保ちながら共に生活出来るよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族と連絡を取るなどの交流を図っている。年賀状など季節の挨拶も大切にしている。退居された方のご家族が訪問されたりと良い関係が保たれている。退居されたご家族が今年の秋祭りにもお手伝いに来てくれた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケア時に本人の思いをじっくり傾聴し、希望や意向を把握し共有できている。本人の希望に沿える環境に近づけるよう、職員全員で検討し支援している。情報は記録に残し共有できている。	利用者の思いや意向は日々聞き取りながら、ケアに反映している。また、家族や知人からは過去の生活情報を聞くこともあり、職員で共有するようにしている。これまでの暮らしや、現在の暮らしの把握はほぼ出来ているが、記録の整備が課題となっている。	種々のアセスメントツールを活用し、これまでの暮らしや、現在の暮らしの記録を整備することで、より具体的かつ効果的なケアの実践につなげることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人、家族、担当ケアマネジャーなどから、生活歴や趣味などの把握に努めている。また、家族とも話しやすい関係を築き、昔の話などを聴きサービスに活かせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会や月末評価などで、現在の細かい変化も把握出来るよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月を基本とし、毎月モニタリングを実施し3ヶ月ごとに担当者会を開催している。開催時には家族にも連絡をし、出席出来ない場合は家族の意向を聴き、計画に反映できるよう務めている。また、状態が悪化したり、入院後変化のあるときにはその都度見直しを行っている。	介護計画は利用者や家族の意向、かかりつけ医、訪問看護師、全職員の意見を反映して作成している。毎月、担当職員によるモニタリングを実施し、計画の見直しは定期3カ月、変化があれば随時に行っている。しかし、初期アセスメントの記録はあるが、その後のアセスメントの記録が整備されていない。	アセスメント記録の整備により、定期的なアセスメントの実施につながることを期待したい。
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化や気づきなどを、細かく記録し残している。また、申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有を図り介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、受診援助や帰宅支援、買い物支援等柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の秋祭りには地元の方々の支援を頂き、テント張りから片付けまで沢山の方が手伝ってくれた。出し物も町内全域から参加され、賑やかに開催することが出来た。皆さんの協力なくしては開催は困難と職員一同感謝するとともに、今後につなげる励みになっている。利用者の方々も笑顔の一日だった。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の確認を行い、事業所では往診体制で受診し、薬は薬局より薬剤師が配達、支払いは管理者が対応している事を伝え、本人、家族に選択して頂いている。歯科など協力医療機関には通院や往診で対応、他の医療機関には家族の協力を得ているが、家族の状況に応じて職員が対応している。	利用者や家族の希望に沿って支援しており、入居時に協力医との医療連携や24時間体制のこと等を説明し、現在は利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療、月1回の訪問看護等が行われ、結果は家族に報告し、職員間は往診記録等で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや変化があれば、看護師と24時間連携の取れる体制にある。週1回の訪問看護を受け、書面や口頭で相談し、適切な対応や助言を得ている。連携の医療機関にも訪問看護の記録をファックスし、医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して療養できるよう情報を提供し、カンファレンスにも参加している。職員も可能な限り面会を行い、ストレスを回避出来るよう努めている。家族の状況によっては事業所が家族の代行をしたり、医療関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化やターミナルについての対応や指針を説明し、同意を得ている。症状の変化に応じて主治医、家族、施設で話し合いを持ち、方針を共有しながら支援するよう努めている。	入居時に、重度化及び看取りに関する指針に沿って、事業所の対応を説明している。終末期の傾向があれば、主治医、家族、事業所で話し合い、終末期ケアへの同意書ももらっている。利用者の状態に応じて話し合い、関係者とチームで支援に努めている。職員の研修、精神面のサポートも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については常に職員と話し合いを行い、慌てず対応するよう指導している。今年も救急蘇生法について講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心として、常に災害に対する意識付けをしている。地震や火災に備えての訓練を定期的に開催しており、同時に消防点検も受けている。訓練には運営推進委員さんの参加も得られている。地震発生時にはこの地区は津波の浸水地域であるため、備蓄品は津波の来ない職員の自宅倉庫を借り備蓄している。食品の期限は確認し、今年は9月に期限の切れるものがあつた為、運営推進会議の方々や職員・入居者さんに試食して頂き、補充品を選定中である。地域の避難訓練にも参加している。	事業所は地震による津波到達時間が12分と予想されており、避難訓練は火災と地震・津波に備え、日中と夜間を想定して年2回実施している。毎回、訓練を検証して課題を次につなげ、夜間想定訓練も職員が順番に行うなど、実践的な訓練を行っている。また、法人本部の防災委員会でも避難について検討を重ねている。非常食等は津波の想定区域外の職員宅に7日分ほどを保管している。	津波の到達予想時間が短く、利用者や職員の避難・救助が課題であり、今後とも、運営推進会議や家族会など、あらゆる機会に利用者の避難・救助方法について継続的に話し合っていくことを期待したい。特に、地域住民との連携体制の強化への取り組みについて期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活全般において、プライバシーに関する支援については、個人情報の保護や、本人を尊重した声掛けを行い対応している。	利用者には、人生の先輩として尊重した対応をしている。トイレ誘導時の声かけや、個人情報了他者に聞かれないよう配慮し、居室の出入りや私物の整理等は本人の同意を得ることを徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情や言葉をしっかり感じ取り、自己決定をしてもらえる環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に生活し過ごしてもらえるよう個々のペースに合わせ、朝食は起床した順に摂って頂けるよう支援している。毎日を決められた事をするのではなく、楽しく笑顔で過ごして頂けるよう、希望に沿ったケアを提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は家族さんが定期的に持ってきてくださる方が大半で、自分で洋服を選んで着替えられる方も居るが、出来ない方については職員が対応して居る。毎月第4木曜日には美容師さんの訪問があり、整髪できている。爪切りや髭剃りもチェック表にて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士が立てた献立に沿った食材が届けられ、レシピに基づいて調理し、幅広いメニューを提供できている。入居者さんにもできることを手伝って頂き、下膳や配膳、テーブルを拭く等、又調理の下ごしらえを共に行っている。	法人の管理栄養士がメニューを作成し、食材が配達され事業所で利用者に見合った調理を工夫している。利用者は野菜の皮むき等の下ごしらえや食卓の準備と片付けを職員と一緒にいき、職員は利用者と一緒に同じ食事をとって、明るく穏やかな雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士の献立に沿って、バランスの良い食事を提供出来ている。水分量も主治医に確認し、個々に応じた水分量を提供出来ている。水分量の少ない方には、容器や飲み物を工夫し摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケアを促している。自力で出来る方には見守りに対応し、確認を行っている。義歯や歯のない方にはガーゼなどで対応している。義歯の方は夜間、洗浄液に浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や動作で排泄のサインを出して居る方が居られ、基本はトイレでの排泄が出来るよう支援している。声掛けにも工夫し、さり気なくトイレに促している。夜間はポータブルトイレを使用している方もおられる。	昼夜とも、トイレでの排泄を基本として支援を行っている。利用者個々の排泄間隔や排泄のサインを職員で共有し、排泄用品の使用も極力少なくできるよう検討しながら、自立に向けた支援を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤を使用している方もおられるが、できるだけ便秘を防げるよう、運動や腹部マッサージ、ヨーグルト、オリーブオイル等を工夫し提供している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に一度のペースで入浴を楽しんでいた。入浴を好まれない方にも声掛けを工夫し、スムーズに入浴できるよう個々に合わせた支援を行っている。	利用者は希望に沿って2～3日に1回のペースで入浴している。毎日の入浴を希望する利用者がいれば、応じる体制をとっている。入浴を好まない利用者には、声掛けの工夫や対応する職員を交代するなど、利用者の気分を変える工夫をしながら支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを考慮し、昼夜逆転にならないよう生活にメリハリを付け過ぎないように支援している。日中は思い思いの場所でテレビを視聴したり、他者との会話を楽しんだり、居室で休息したりしてストレスにならないよう安心して過ごせるよう努めている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケースと服薬専用ファイルに説明書を保管し、変更があればその都度差し替え、何時でも確認できるよう支援している。薬のセッティングは管理者が行い、副作用や容量・用法について注意点があれば、申し送りノートで職員間で共有できるようにしている。服薬管理はチェック表にて管理できている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた楽しみ事を見つけ、ゴミ箱折や壁画作り、塗り絵、花の手入等を日課として支援している。天気の良い日には屋外に出て日光浴をしたり、ボール遊びを楽しんだりして過ごしている。散歩がてら近所に菊の花を見に出かけたりと、気分転換を図れるよう努めている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気候に左右されるが、できるだけ屋外に出て周辺を散歩したり、近所に花を見に出かけたり、公民館や個人の家の雛飾りを見学に出かけたりと、地域の方の協力を得ながら支援している。故郷外出も家族の了解のもと、年に数回行っている。	利用者一人ひとりにその日の希望を聞いて、外出を支援している。職員から利用者のふるさとの話しをして外出への関心を引くなど、利用者の自発的な希望に沿った支援に努めている。行事である四季折々の花見は、小グループに分かれて順番に全利用者が出かけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	開設当初は個人に金銭の管理を任せていたが、無くなったと言われる方もおりトラブルの原因になったため、家族の了解のもと管理者が預かり管理している。用途については毎月お小遣い帳をコピーし、領収を添付して送付している。残金が少なくなれば、その都度家族に連絡している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とお話がしたい方が居られたら、その都度電話をお繋ぎし話をして頂けるよう支援している。又、家族から電話があった時にも話していただくようにしている。家族からの手紙を代読してほしい方には支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やホールには季節の花や壁画、置物などを配置し、季節感を出して居心地の良い空間づくりを心がけている。季節の花を植え、楽しんで頂けるよう工夫している。	共用空間はどこも明るく清潔にしている。玄関や居間等の多くの場所に生花を活け、壁には利用者が共同で作成した季節の飾り物を展示している。食堂兼居間には椅子やソファを配置し、廊下の突き当りにも椅子を置いて休憩できるようにするなど、安全で居心地の良い空間をつくっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外には中学生が制作し寄付してくれた椅子などを配置し、玄関先にも常に椅子を置きいつでも座って外の景色を楽しめるようにしている。ホールにも家族さんから頂いたソファや飾棚を配し、個々の座る場所を確保している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンス等できるだけ個々の使用していた物を持ってきて頂いている。独居で自宅にいた方は、仏壇も持ってきているため、朝夕のお供えをすることを日課にされている。家族の写真や自作の飾り物なども壁に飾り、居心地の良い空間作りを工夫している。	入居に当たっては、自宅で使い慣れた物を持参するように家族に依頼している。利用者それぞれの生活に合わせて、馴染みの家具、テレビ、小物入れ、家族写真、仏壇等を持ち込み、個性的でくつろげる居室にしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を書くことで、自分の部屋と認識していただけている。シルバーカー歩行の方も多く、できるだけ自立歩行できるよう支援している。歩行時には絶えず見守りし、行き先の確認を行っている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない